

グローバルCOEプログラム「コンフリクトの人文科学国際研究教育拠点」  
「コンフリクトの人文科学」セミナー 第64回

難民とホストによる新たな「日常」の構築

—ケニア・ダダブ難民キャンプにおける長期化難民とホストの社会-経済的関係—

講師：内藤 直樹（国立民族学博物館研究戦略センター・機関研究員）

要旨：

1991年のバーレ政権の崩壊から約20年が経過した現在、多くのソマリアの人びとは「長期化した難民状態 (Protracted Refugee Situations: PRS)」にある。だが東アフリカの受入国は、難民を僻地の難民キャンプに隔離する傾向を強めてきた。つまり難民は、国際社会の支援により生存を保障される一方で、市民権を持たぬ生活を続けている。また、PRSはホストにも難民という「他者」との共存を強い続けている。このため近年では難民支援とホスト社会の開発を結びつけた新たな支援の枠組みが注目されている。

本発表では、PRSにある難民とホストが、難民キャンプという空間を構成するグローバル・ナショナル・ローカルな法・制度や人・モノ・情報のフローのなかで、秩序や生活世界を再構築する過程について検討する。具体的にはケニア・ダダブ難民キャンプに居住する約30万人ものソマリ難民と、周辺の牧畜民やケニア市民あるいは国境を越えたアクターとの社会-経済的関係の諸相について報告する。また最後に、現代社会における社会的弱者の隔離/保護の空間をめぐる民族誌的アプローチの可能性について議論したい。

講師紹介：

専門は生態人類学、地域研究。東アフリカ牧畜社会の制度・組織の可変性・流動性、貧困と開発、紛争・難民問題などに関心がある。国立民族学博物館 試行的プロジェクト——若手研究者による共同研究「＜アサイラム空間＞の人類学:社会的包摂をめぐる開発と福祉パラダイムを再考する」を主催。おもな著書に『遊牧民——アフリカの原野に生きる』（共著、昭和堂、2003年）、論文に「東アフリカ牧畜社会における政治的民主化と民族間関係の動態:北ケニア牧畜民アリアルが経験した地方分権化と国会議員選挙の事例から」『国立民族学博物館研究報告』34巻4号、pp.681-721（2010年）などがある。

日時：2011年4月21日（木） 16:20 ~ 18:20

会場：大阪大学大学院人間科学研究科（吹田キャンパス） 東館3階 304講義室（参加無料）

東館は万博外周道路側の別館です。大阪大学大学院人間科学研究科（吹田キャンパス）への交通アクセスは <http://www.hus.osaka-u.ac.jp> をご参照ください。

お問い合わせ先：

大阪大学大学院人間科学研究科人類学研究室

e-mail: [globalra@hus.osaka-u.ac.jp](mailto:globalra@hus.osaka-u.ac.jp)

電話 06-6879-8085/06-6877-5111



なおこのセミナーは、「コンフリクトの人文科学特講」「コンフリクトの人文科学特別講義」に相当し、履修可能です。